

60歳超えからの保育士受験体験記

(資格者特典の免除科目なしで全9科目を受験してみた体験※特典はしっかり使おう)

1回目(28-4) 社会福祉 60・保育の心理学 70・子どもの保健 60・保育実習理論 60

2回目(28-10) 保育原理 65・児童家庭福祉 65

3回目(29-4) 子どもの食と栄養 70

4回目(29-10) 教育原理 40・社会的養護 40 (29-12) 音楽表現 31・言語表現 32

※とり逃した科目は大概あと1問あっていればというケースがほとんどなので、あと1問正解して60点でクリアを目指そう。

平成31年4月保育士試験の個人的感想

1. 保育原理→得点度A(テキストの赤文字など協調部分を確認しておけば大丈夫)

得点度A 11問

得点度B 4問

得点度C 5問

冷静に問題を解答していけば手堅く11問はとれるはず。迷うがBの4問中2問程度の確保を狙おう。

2. 教育原理→得点度C(原理原則をしっかり覚えよう。テキストの過去問で十分)

得点度A 4問

得点度B 4問

得点度C 2問

得点度Bのうち2問をなんとかものにしたい。法律と人物についても問題文を読み解くことで確実に得点可能。

3. 社会的養護→得点度B(教育原理とセットで合格が必要。ただし、内容は答えやすい)

得点度A 6問

得点度B 0問

得点度C 4問

勉強していても難しい問題が4問。確実に点の取れる問題で乗り切ろう。

4. 児童家庭福祉→得点度B(施設や制度に迷う問題が多いのでテキストをしっかり読んでおこう)

得点度A 7問

得点度B 7問

得点度C 6問

難問の6問は仕方がないとしても、Bの迷う問題を5問以上突破する必要がある。過去問の分からない部分をテキストで補完しながら、最新版のテキストで近年注目されている箇所をチェックしよう。

5. 社会福祉→得点度A(確実に取れる問題が多いので、問題の意図を読み取りたい)

得点度A 9問

得点度B 6問

得点度C 5問

難問の5問はあきらめてもいい。Bの迷う問題の6問中半分の3問を突破するためには、問題をよく読みキーワードに○をしてわかる設問から絞り込んでいこう。

6. 保育の心理学→得点度A（確実に取れる問題が多いので、問題の意図を読み取りたい）

得点度A 10問

得点度B 6問

得点度C 4問

確実に取れる問題がほぼ10問、迷う問題が6問ある中で2問をクリアしたい。問20などは解答の仕方によっては真逆に解答しまいそうな問題がある。ここが試験のあやというかコツを求められるところ。出題と解答の選択をうまく探って正解につなげよう。

7. 子どもの保健→得点度A（確実に取れる問題が多いので、問題の意図を読み取りたい）

得点度A 10問

得点度B 7問

得点度C 3問

確実に取れる問題がほぼ10問、迷う問題が7問ある中で2問をクリアしたい。全体的に常識問題に近い内容が半分を占める。最初に自信をつけたいならこの科目から受験していこう。

8. 子どもの食と栄養→得点度A（確実に取れる問題が多いので、問題の意図を読み取りたい）

得点度A 10問

得点度B 9問

得点度C 0問

? 1問

確実に取れる問題がほぼ10問、迷う問題が9問ある中で2問をクリアしたい。見方によってはサービス問題が得点度Bの中に多数ある。テキストで主要な部分を押さえておけば合格の可能性は高い。最初に自信をつけたいならこの科目も確保する気持ちでいこう。

9. 保育実習理論→得点度C（B）テキストから音階、移調など提携に近い問題の出題には確実に得点したい。ピアノの経験のないあるいは楽譜が苦手な人は図工、工作、事例でしっかり得点しよう。

得点度A 6問

得点度B 2問

得点度C 7問

? 5問

※著作権の関係で?が5問あり全体像が見えにくい。確実に取れる問題が6問、迷う問題が2問ある。

注意すべき点は今回の試験では得点度Cのものがすでに7問。得点度Bが2問と？を入れて6問の正解を得るとすると結構難関かも。やはり音楽で得点度Cも含めて音階の規則をつかんで得点しよう。

(受験体験記)

この評価を書いている私は3年くらい前、初めての受験で全科目中4科目合格した。その4科目のうちの1科目がこの保育実習理論だ。得点は60点だった。音楽のピアノの図が出てくるとそれだけで鉛筆を転がしたくなった。しかし、よく見ると図形とか事例とかは確実に得点できると思われるものがいくつかあって試験会場で12問の正解を確信し、その通りになった。今回の試験内容では？のところが多く、内容について詳しくは評価できないが、ピアノだけでなくギターや歌の得意な人もあるので、試験もそれなりに配慮されているのではないかと推察している。